ディジタル放送の現状と課題

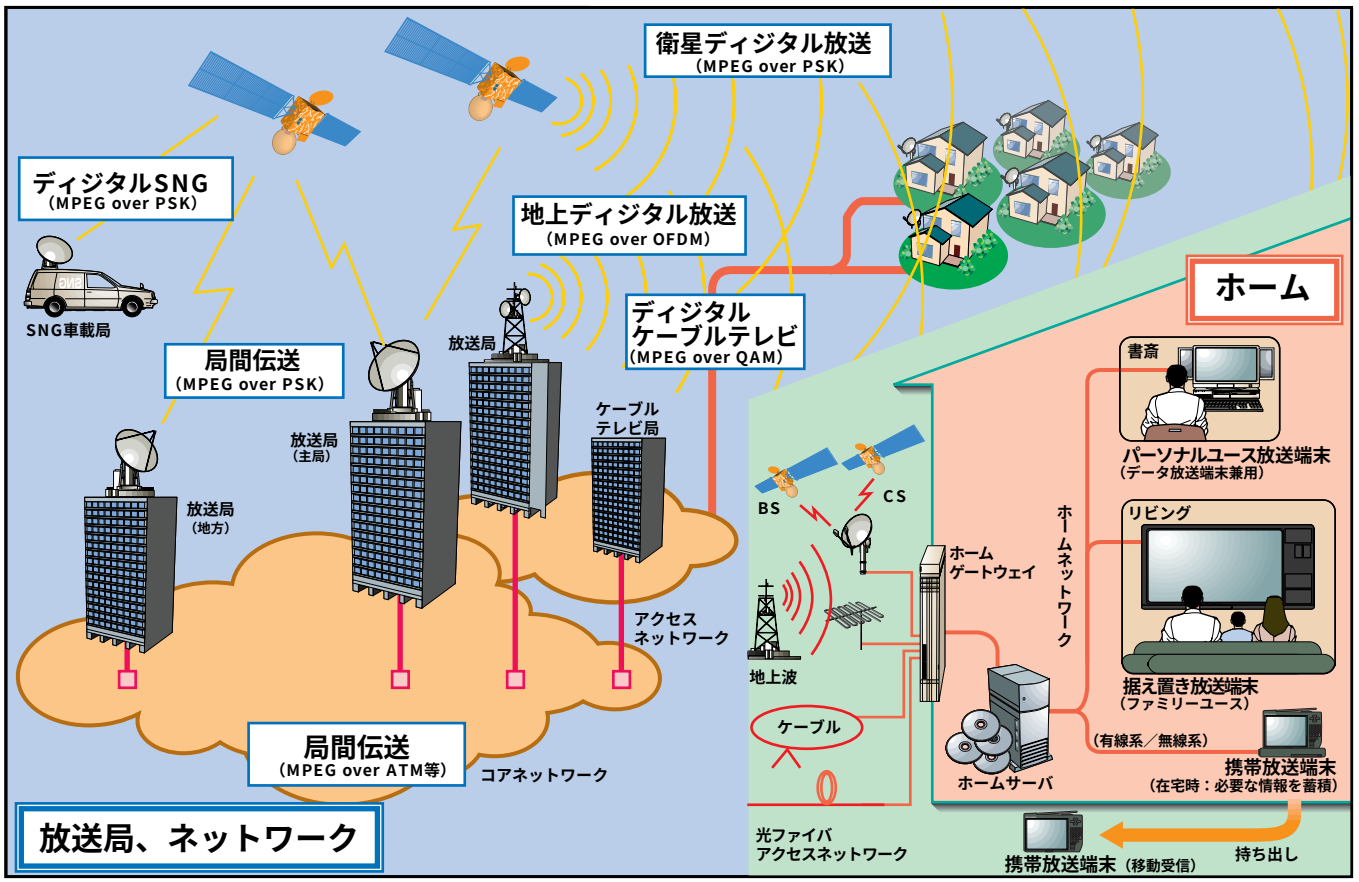
村上篤道*　P.A.Ratliff+
山口哲成**　野間口　有++
T.C.Poon***

要　旨

放送のディジタル化は，21世紀に向けて新しい放送文化を創造する機会を到来させる。ディジタル放送は，インフラストラクチャからサービスに至るメディアの変革であり，世界的規模でかつ地域の隅々まで実り豊かな社会生活をもたらす期待感を抱かせる。普及のためには，各国の施策，インフラの整備，技術の規格標準化，安価な高機能情報端末，魅力あるサービスが同時に並行してユーザーに受け入れられるようなプロセスの創出が必要である。

ディジタル放送の展開は，映像・音声符号化技術の規格標準化を機に衛星・地上波・ケーブルの各伝送媒体において始まり，臨場感あふれる高品質テレビジョン，多チャネル，マルチメディア情報のサービス実現に向け，日・米・欧で各国同時に加速進行中である。

こうしたディジタル放送サービスの実現には，オーディオビジュアル技術や，通信とコンピュータを融合した高度な技術開発が必要である。三菱電機(以下“当社”という。)は，新しい時代を切り開くため，放送局システム，集配信ネットワーク，家庭用受信機，ディジタルテレビ用コーデック，基幹LSI等の開発に積極的に取り組んでいる。



ディジタル放送時代のシステム＆サービスイメージ

MPEG2の規格化を契機に，放送のディジタル化が大きく加速した。放送のディジタル化は，高度情報社会実現の糸口になると予想される。ディジタル化により，高品質放送，多チャネル，多機能，通信／蓄積メディアとの融合(システムの相互接続性，コンテンツの相互流通性)が実現し，視聴者は，情報端末としての役割を持つ放送端末を使って主体的に種々のサービスを選択できるようになる。

*三菱電機(株)情報技術総合研究所マルチメディア部門統轄部長　**同郡山製作所長
++同常務取締役 開発本部長(工博)　***Information Technology Center(America)Director(PH.D.)
+Information Technology Centre(Europe)General Manager(PH.D.)